地域の絆が命を救う

シリーズ 自主防災組織 1

未曽有の被害をもたらした東日本大震災。この危機に学び、災害発生の初期段階に、地域で自主的に避難・対応できるよう、糸島市では各行政区ごとに、おおむね20戸単位で組織する自主防災組織の確立をめざしています。

住民同士のつながりで、円滑に組織化できました。

二丈長石行政区自主防災会
会長　波多江 茂さん
（長石行政区長）

全体区長会において、市から自主防災組織の設立の必要性について説明を受けたのが5月下旬。6月の常会で住民のみなさんの了解を得て、早速名簿作成に着手。40戸を上組・下組の2班に分け、非常時の救援体制を整え、避難マニュアルを作成するなどして、7月15日に「長石行政区自主防災会」を設立するに至りました。

名簿作成時の個人情報の取り扱いは、班長以上のみ閲覧可とし、特に問題は起こりませんでした。長石行政区は、年間8回のお宮のおこもりをはじめ、常々地域住民が集う機会があり、みんな顔見知り。そういう事情でスムーズに組織化できたと思っています。

私はこれまでに大きな災害を経験したことはありません。しかし大正期のころ、この地区では大規模な鉄砲水が発生し、何軒も家が押し流されたと伝え聞いています。

せっかく設立した自主防災組織。いざというときにきちんと機能しないと意味がありません。日ごろから危機管理意識を持っておくよう、住民のみなさんにも、常会などの機会があるごとに促していきたいと思っています。

フレッシュ糸島 #14 Fresh Itoshima

全日本中学校陸上400m男子 優勝
日々の努力と自分を信じた結果

志摩中学校3年生　陸上部
中村 誠君

第38回全日本中学校陸上競技選手権大会
共通男子400m　優勝　49秒82

志摩中のグラウンドで練習を行う中村君（右）とキャプテンの藤瀬君（左）

「日本一をめざしてみないか？」…陸上部に入ってすぐに吉村先生から言われた言葉でした。確かに自分自身の足の速さには自信があったけれど、日本全国にはもっと凄い人たちがたくさんいるし、日本一なんて絶対に無理だと思っていました。

陸上部に入ろうと思ったのは、小学生のころから続けている野球のチーム仲間に走りで負けたことがきっかけでした。自分の売りはバッティングと足の速さだと思っていたのですが、ある時、勝負して負け、かなりショックを受けました。

そんな時に陸上部顧問の吉村先生に声をかけられ、野球を続けながら陸上部に入ろうと決心しました。

部活では、すぐに実践的な練習をするのかと思っていたのですが、初めに教えられたことは、意外にも「あいさつ」や「感謝の心」などの礼儀でした。

先生は、日常生活があって、その上に人の心・精神面が成り立ち、その2つが土台となって競技の時に力が出せるのだと、いつも教えてくれました。

そうした礼儀をたいせつにしながら、毎日の朝練や放課後の練習をコツコツと積み重ねていくことで、自然といいタイムも出るようになり、いつの間にか成長している自分がいました。

そして今年の8月に迎えた全国大会。予選や準決勝では、落ち着いて走ることができましたが、決勝はさすがに緊張しました。スタート前は、今まで自分がやってきたこと、共に頑張ってきた仲間のことを思い浮かべながら決勝に臨みました。

結果はほぼ自己ベストに近い49秒82でゴール。真面目に練習を積み重ねることで、誰でも結果が出せることを学びました。

志摩中学校陸上部大健闘！

平成23年8月19日～22日、奈良市鴻ノ池陸上競技場で開催された第38回全日本中学校陸上競技選手権大会に、志摩中学校陸上部の4名の選手が出場し、共通男子200m準決勝進出、共通男子400m優勝、共通男子400mリレー準決勝進出など、優秀な成績を残しました。

8月25日、4名のメンバーと顧問の先生が市役所を訪れ、市長に報告しました。

第38回全日本中学校陸上に出場した志摩中学校陸上部の選手たち

●共通男子200m準決勝進出（牛田匠海／22秒78）
●共通男子400mリレー準決勝進出
（藤瀬俊充、牛田匠海、稲原衛、中村誠／44秒28）

うちの子紹介 14

佐々木 遥香（はるか）ちゃん（長女・左）
健伸（けんしん）くん（長男・中）
愛矢（まや）ちゃん（次女・右）
（6歳と5歳と3歳／二丈福井）
伸一さん・こずえさんの長女・長男・次女

わんぱく盛りの仲良し三姉弟。お父さんが漁に出るときは魚の箱詰め、カキ小屋の営業のときは台ふき・ごみ捨てなど、みんなで力を合わせてお手伝いをしてくれます。パパとママは、そんなみんなのことが大好きです。

これからも健康で元気にのびのびと成長してくれることを願っています。

市民のみなさんの、お子さんへのメッセージをお待ちしています。
申し込み・問い合わせ／糸島市秘書広報課 ☎(332)2111